

雑草生態及び除草剤試験に関する研修会に参加して

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 平井 誠一

平成19年8月21, 22日の2日間, 中央農業総合研究センター及び日本植物調節剤研究協会研究所において, 雑草生態及び除草剤試験に関する研修会が行われた。この研修会は, 雑草や除草剤の適切な扱い方や除草剤の使用基準作成のための効果・薬害の評価方法を習得することを目的としており, 公立農業試験研究機関, 農薬会社, 植調協会試験地等から約140名が参加した。

研修の内容は以下の通りである。

「第1日目」全体研修

1. 農薬登録保留基準について

農林水産消費安全技術センター 曾根 一人 氏
農薬登録にあたり, 国によって定められた作物残留, 土壌残留, 水産動植物, 水質汚濁に係る登録保留基準について説明があった。各項目ごとに数値が細かく決められており, 農薬の登録を行うためにクリアすべき条件が多岐に渡って設定されていることを知ることが出来た。

2. 除草剤の分類と作用性

農業環境技術研究所 與語 靖洋 氏

除草剤の適用性の正確な把握, 効果的な使用方法等を知る有用な手段として, 分類と作用性について, スライドを用いて説明があった。分類では, 除草剤の持つ特徴に基づき, a) 適用

作物と適用雑草による分類, b) 作用機構による分類, c) 化学構造式による分類, d) 製剤や処理方法による分類が示された。

作用性については, 除草剤の植物に対する作用点及びその反応機構, 選択性について説明があった。現場で最も適した除草剤を効果的かつ合理的に使用する際に重要な知識を得ることが出来た。

3. 総合的雑草管理 (IWM) について

中央農業総合研究センター 渡邊 寛明 氏

除草剤に依存しすぎるのではなく, 耕種的, 物理的, 生物的防除等を組み合わせることで, 効率的に雑草防除を行う管理システムについて説明があった。今日の雑草防除といえば, 除草剤に目が向きがちであるが, 多使用による難防除雑草の発生や環境への配慮, 減農薬の流れを考えると, IWMは理想的な管理システムだと思われた。

4. 水稲作及び畑作における最近の問題雑草

中央農業総合研究センター 内野 彰 氏,

浅井 元朗 氏

従来から問題となっている雑草に加えて, 近年問題となっている雑草についての紹介があった。テキストにも多くの草種が掲載されており, どのようなものが存在しているのかを確か

めるのに大変重要である。また、対策も書かれてあるので、難防除雑草が問題となった時の参考にしたい。

全体研修終了後、センター内に設置されている雑草見本園を見学した。見本園に展示された多くの草種を一度に見ることができ、写真では分かりにくい点を詳しく確認することが出来た。経験が浅いため、まだ実際に見たことのない雑草も多いが、新たな知識を得ることが出来た。

「第2日目」午前 分野別研修

対象を水田と畑地・樹園地に分けて、分野別研修が行われた。

5. 水田雑草の生態的特性と防除

中央農業総合研究センター 川名 義明 氏

収量低下、作業効率の低下、病害虫の寄生源等、雑草がもたらす悪影響の説明の他、一年生雑草及び多年生雑草の発生条件や繁殖器官について、それに対する防除法など、幅広い説明があった。雑草の防除を迅速に行うためには、植物体を的確に識別するとともに、生態についても理解することが必要であることが分かり、大変参考になった。

6. 水田除草剤試験の実際及び試験結果のとり

まとめ

日本植物調節剤研究協会 金久保秀輝 氏、

山木 義賢 氏

水稻適2試験を実施する際の試験区の設定及

び作成方法、雑草の播種及び埋め込み方、防除効果の調査方法等について説明があった。代表的な草種が出来るだけ自然発生するのが望ましいが、どうしても発生の少ないものがあるため、同時に示された水田雑草の種子・塊茎の採取、保存の仕方と併せて、適正な評価が出来るよう実践していきたい。成績書については、農薬登録に必須のものであり、不備のないよう確認を細かく行いたい。

午後 現地研修

牛久市にある日本植物調節剤研究協会研究所にて、水稻試験区の作成実演や大豆用畦間散布機による散布実演、関連施設内での試験の様子等、計10カ所を見学させていただいた。見学地では、担当の方から丁寧な説明をしていただき、大変分かりやすかった。他試験地の試験の様子を見ることで新たな発見をすることもあり、今後の参考にしたい。

今回の研修では、試験方法だけでなく、雑草に関する知識も数多く得られ、大変有意義であった。また、他の試験研究機関の方々とお話をさせていただいたことも、自分にプラスとなった。今年度から水稻関係除草剤第2次適用性試験の担当になり、雑草と日々格闘しながら試験を行っているが、この研修で学んだことを活かしたいと思う。

牧草・毒草・雑草図鑑

定価 2,940円
(本体2,800円+税5%)

編著：清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七

B6判 288頁 カラー写真800点

牧草・飼料作物80種、雑草180種、有毒植物40種を収録した畜産のための植物図鑑

発行／社団法人畜産技術協会

販売／全国農村教育協会 電話 03-3839-9160 FAX 03-3839-9172